



徳島署、三好市、香川大学が協定を締結

三好市の「木の文化」の象徴である祖谷のかずら橋、奥祖谷の二重かずら橋の架け替え資材であるシラクチカズラの資源確保と実の活用を推進するための連携・協力に関する協定を2月23日締結しました。これまで、徳島署と三好市では、1,500本の苗木を植栽し、架け替え資材として育成してきましたが、その多くが生育しない等の課題を抱えていました。そこで、つる性植物の増殖や育成に関する技術を有する香川大学農学部との協力を得ることで、将来にわたってシラクチカズラを育成していくとともに、その実の活用についても、徳島署、三好市、香川大学が連携・協力していくことで、地域振興を支援していきます。



3者が協定書に署名



連携・協力のための協定



架け替えしたかずら橋



協定締結式の様子



式典(神事)の様子



親子3世代による渡り初め



関係者によるテープカット



新しくなったかずら橋

祖谷のかずら橋の渡り初め式に参加しました

3年に1度架け替えされる「祖谷のかずら橋」(国指定重要有形民俗文化財)の架け替え作業が終了し、2月23日架け替え後初めての渡り初め式が行われ、徳島森林管理署から署長をはじめ担当職員が参加し、地元の3世代の親子を先頭に新しくお披露目されたかずら橋をわたり、その後関係者が渡りました。今回の架け替えは、平成27年1月以来3年ぶりとなるもので、約6トンのシラクチカズラを必要としましたが、徳島森林管理署から管内の国有林に自生するシラクチカズラ約2.3トンを架け替え資材として提供(販売)しました。

徳島森林管理署では、今後地域の木の文化の象徴である祖谷のかずら橋等の架け替え資材の全量を提供していきたいと考えており、将来にわたって架け替え資材を確保していくための取組を展開していきます。

地域の森林・林業の再生に向けた取組

徳島署では、これまで公益重視の管理経営の推進、地域の森林・林業の再生への貢献などに積極的に取り組んできましたが、次年度もこれらに果敢に取り組んでいくとの方針の下、現在、平成30年度の各種事業の準備を進めています。特に、1月22日に開催したケーススタディ会議では、引き続き地域の森林・林業の再生に向けた課題解決に向け民間が連携していくことを確認しました。また、地域の課題でもある技術者の育成についても、管内市町村の林務担当者を対象にした現地検討会を継続して開催していくこととしました。今後とも、徳島森林管理署では、市町村、関係機関等からの要望等の把握に努め、それらを反映した取組を展開していきます。



徳島署からの説明



来年度事業を審議



H29.10の現地検討会



H28.7の民間連携の検討会



徳島署庁舎

四国森林管理局 徳島森林管理署
 TEL:088-637-1230 / FAX:088-666-1818
 〒771-0117 徳島県徳島市川内町鶴島239-1



国民の森林・国有林